

1983年（昭和58年）8月創刊 E-Mail, PDF, Web, SNS

日刊旅行通信

Wing Travel Daily

発行所：航空新聞社 ウイングトラベル編集部
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-19 ニュートヨビル3階
TEL: 03-3796-6646 FAX: 03-3796-6645
購読料 半年35,200円 年間66,000円（消費税込み）



【トップニュース】

★カモメツーリスト、こだわりの中国旅行提案 「ガチ旅チャイナ」で日本人中国旅行活性化を目指す

日本人の海外旅行マーケットが回復途上にある中で、日本の旅行会社が今年注目のマーケットとして挙げるデスティネーションの1つが昨年11月に日本人渡航者に対するビザ緩和措置が講じられた中国だ。そうした中で、長年にわたって中国旅行を取り扱ってきたカモメツーリストはこのほど、新たな中国旅行ブランド「ガチ旅チャイナ」を立ち上げて販売に乗り出した。新ブランドでは、「本当の中国の魅力」をコンセプトに、日本ではまだ知られていない新たな観光素材や企業向けに先端技術に触れる視察旅行などを提案する。

さら日本旅行業協会（JATA）が展開する「もっと!海外へ」キャンペーンにも参画。さらに、インフルエンサーなど中国の魅力を良く知る人々との接点拡大を図り、コロナ禍前とは異なる視点を入れたツアー造成を図っていくことで、若年層を始めとした新たな需要の獲得にも力を入れ、中国旅行の活性化を目指す。

新たなビザ免除措置がツアーの幅広げる契機に コロナ禍中に豪華列車など新たな素材登場

中国はコロナ禍において長く外国からの旅行者の受け入れを制限してきたが、昨年11月に中国政府が日本人訪問客に対して30日以内の滞在におけるビザ免除措置を発表。中国渡航に対するハードルが下がる格好となった。

コロナ禍前はビザ免除の対象滞在期間が15日となっていたが、これが30日間に延長されたことで「旅行造成の幅が広がることになる」とカモメツーリストの石毛二郎国内・海外旅行事業部事業推進開発本部長はこうに話す。

中国旅行に出かけやすい環境が整う中で「これまでと変わらない商品を提供しては市場が伸びないと考えており、より差別化していく必要に迫られている」（石毛本部長）ことから、同社が新たな中国旅行として提案したのが「ガチ旅チャイナ」だ。

新ブランドのコンセプトとして掲げたのが「本当の中国の魅力」。石毛本部長を始め、同社のスタッフが中国に深く関わってきた想いをツアー造成に込めた。

ガチ旅チャイナの目玉企画の1つとして用意したのが、コロナ禍の中で登場した豪華列車「星光・瀾湄号」の旅だ。同列車は雲南省の昆明をベースに運行されるもので、現在は昆明と隣国であるラオスの首都ビエンチャンを結ぶ国際



※写真＝本紙との取材に応じたカモメツーリストの石毛二郎国内・海外旅行事業部事業推進開発本部長

列車として運行されている。

カモメツーリストはこの列車に乗車する9日間の旅「雲南・ラオス秘境の旅」を企画した。このツアーでは中国南部の少数民族に触れたり、この地域ならではの絶景を列車で楽しめる内容となっている。

このほか、日本でも「ガチ中華」として本場の中華料理に対する関心が高まっていることかあ、専門家監修のもと、四川料理を食べ尽くす食体験ツアーも用意した。

法人向けの視察旅行にも注力 電気自動車やAI関連企業を訪問

ガチ旅チャイナではレジャー旅行だけでなく、法人向けの商品を提案する。その1つとして現在用意しているのが、中国の電気自動車メーカーや自動運転関連の企業をアレンジして、視察を行う企画を用意した。

石毛本部長は「EV関連だけでなく、人工知能やエネルギー関連など、さまざまな先端技術関連の企業があるので、そうしたものをアレンジする企画なども展開していきたい」と話す。

JATAの「今こそ!海外」企画に参画 パスポート補助キャンペーンに10商品対象

さらに同社は日本旅行業協会（JATA）が展開する海外旅行需要喚起企画「もっと!海外へ」キャンペーンに参画。同キャンペーンで展開する新パスポート取得サポートキャンペーンに星光・瀾湄号の商品を含め約10商品を対象商品と

して設定した。

同社は新たにパスポートを取得し、対象となる海外旅行商品を申込した先着100人に対して、旅行代金から5000円から1万円を割引くことにしている。

インフルエンサーら巻き込み新機軸を 訪日事業で培った関係活かし素材掘り起こし

石毛本部長は今後の中国旅行について「若年層をもっとクローズアップしていきたい」と話す。中国は古代文明の遺産から未来技術の進歩まで多彩な観光魅力を持つ。そうした部分を新たな視点で掘り起こしていき、より深みのあるツアー造成を図っていききたい考えだ。

その一環として「中国の良さをSNSなどを通じて紹介している人が最近増えており、そのような人たちと接点を構築し、旅行会社としての目線とはまた違った切り口でツアー造成を行っていききたい」と話し、インフルエンサーなどとの接点を構築し、新機軸の旅行商品を開発していききたい考えを示した。

さらに石毛本部長は「グループ会社で訪日事業を取り扱っているが、中国からの訪日インバウンド需要が拡大していく中で、中国各地のさまざまな観光関係者との接点もできつつある。そうした人たちとのコミュニケーションもより緊密なものとしていきたい」と話し、同社がこだわる「本当の中国の魅力」を掘り起こして、日本の旅行者により深みのある中国旅行商品を提供していきたいと意気込みを示した。

※カモメツーリストの「ガチ旅チャイナ」ウェブサイト

<https://chinago.kamome-travel.jp/index.html>



※画像＝中国旅行活性化へ「本当の中国の魅力」を伝える旅を提案
（画像は「ガチ旅チャイナ」のウェブサイト）